

◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が4例(男性2例(30歳代, 50歳代), 女性2例(10歳未満, 60歳代))あります(第32週追加報告分1例含む)。本年の累積報告数は203例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約7.8倍となっています。全国の累積報告数も13,748例と平成24年(2,391例)と比べて, 約5.7倍となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	2	5	42	40	33	8	3	133
女性	6	5	28	9	8	7	7	70
合計	8	10	70	49	41	15	10	203

- ・ 第33週はお盆の期間で休院している医療機関もあることから, 例年, 全般的に報告数が減少する傾向がみられます。第33週の定点医療機関からの報告数は294例で, 前週467例の約6割程度の報告となっています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 3.56(146例)で, 前週5.37(220例)より減少したものの, 依然として過去5年平均値を大きく上回っています。全国の定点当たり報告数(5.23)においても前週(7.95)より減少したものの, 都道府県別においては, 47都道府県中29都県で警報レベル『5.0』を超えています。また, 近畿6府県では, 滋賀県, 兵庫県及び和歌山県が警報レベルを超えています。
- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数が0.41(17例)で, 前週0.24(10例)に比べ約1.7倍に増え, 過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。
- ・ クラミジア肺炎の報告が, 基幹定点より1例あります。本年の累積報告数は3例です。「感染症法」が施行された平成11年4月以降, 京都市においては, 平成11年1例, 平成14年1例の報告となっています。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が4例(散発3例, 家族内1例)あり, 2週連続の報告となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 4例【1月以降の累積報告数 22例】
- ・ 五類: 風しん(検査診断例 3例, 臨床診断例 1例) 4例(第32週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 203例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	3.56	146
	② ヘルパンギーナ	1.12	46
	③ 感染性胃腸炎	0.73	30
	④ 水痘	0.44	18
	⑤ 咽頭結膜熱	0.41	17
	⑤ 突発性発しん	0.41	17
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

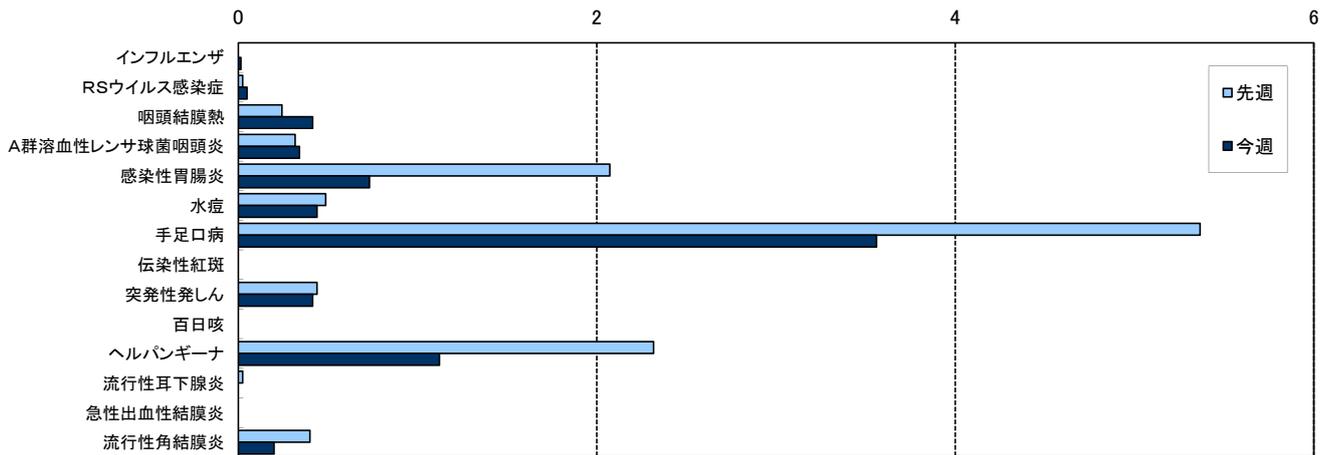
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成25年8月22日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

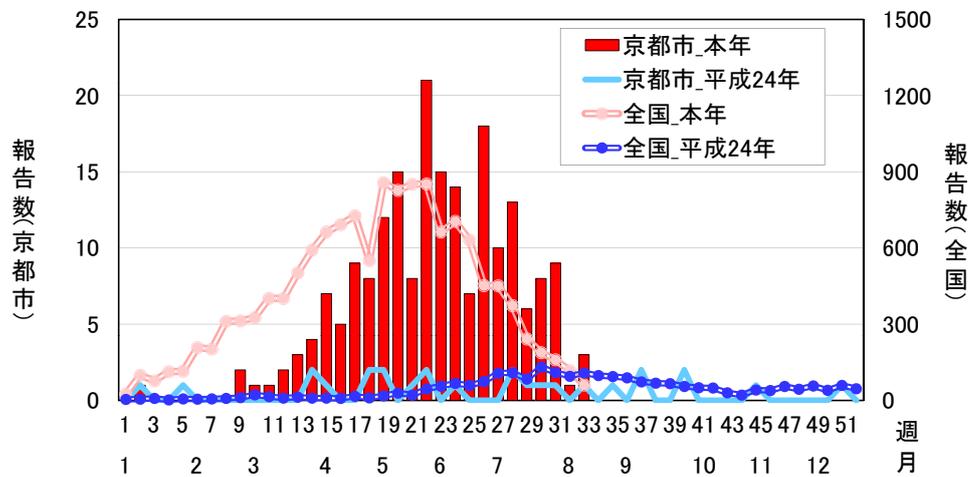
1 今週(第33週)と先週(第32週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

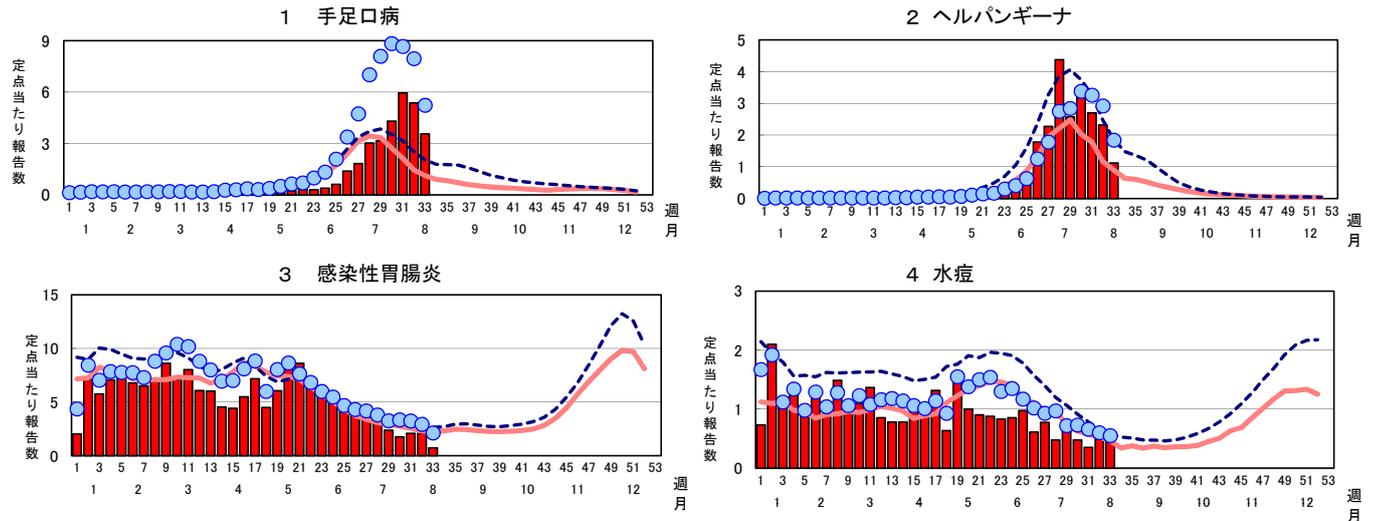
今週の報告数(累積報告数)
平成25年8月22日現在

京都市	3例 (203例)
京都府(京都市を除く)	1例 (107例)
近畿6府県	20例 (5072例)
全国	63例 (13748例)

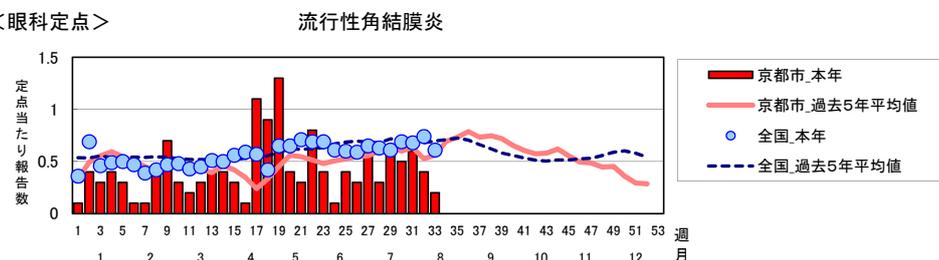


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第33週(8月12日～8月18日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が4例(散発3例, 家族内1例)あり, 2週連続の報告となっています。

年齢群別, 性別, 型別, 推定感染経路は,

10歳未満, 男性, O157(VT1・VT2), 不明

20歳代, 女性, O157(VT1・VT2), 不明

20歳代, 女性, O157(VT1・VT2), 経口感染

70歳代, 男性, O157(VT1・VT2), 経口感染です。

本年の累積報告数は22例となっています。散発15例, 家族内7例で, 性別は女性15例, 男性7例です。型別は, O157(VT1・VT2)16例, O157(VT1)1例, O157(VT2)2例, O26(VT1)3例となっています。推定感染経路は, 経口感染が14例, 接触感染が3例, 原因不明が5例となっています。詳細は下記ホームページをご覧ください。

○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」

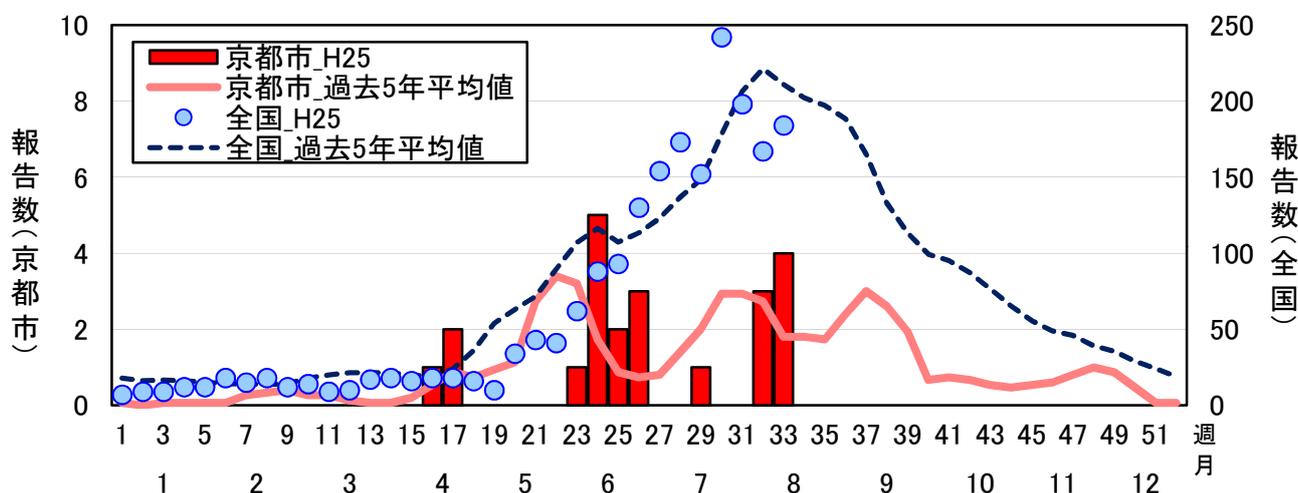
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>

医療機関におかれましては, 腸管出血性大腸菌感染症を診断された場合は, 速やかに所轄の保健センターに届出していただくようお願い致します。また, 腸管出血性大腸菌感染症報告後にHUSの発症が認められた場合は, 追加報告をお願い致します。

○京都市保健衛生推進室保健医療課のホームページ「医師の届出基準, 届出の様式」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

本市及び全国の報告数の推移



本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	O165	その他
平成11年4月以降	26								25		O1が1例
平成12年	33	8							25		
平成13年	52	8				1			43		
平成14年	35				1				32		1 型別不明が1例
平成15年	101	5							96		
平成16年	48	2					4		42		
平成17年	36	5		1					30		
平成18年	57	2					1		54		
平成19年	54	2				3			49		
平成20年	86	34			5	2		3	41		HUS患者で型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79		
平成22年	34	1			1	2			30		
平成23年	34		1			1		1	30		HUS患者で型別不明が1例
平成24年	27							1	23		1 HUS患者で型別不明が2例
平成25年第33週まで	22	3							19		